

KSKQ

エヌピーオー

# NPOちゅうぶ 通信

つうしん  
ねん がつごう  
2025年8月号



## おにごっこ

大阪府ガイドライン改訂の予定

アクセス関西報告 障害者の声を届けよう

施設入所者の方に外出 取り組みしています

ちゅうぶを語る 事務局 石田義典

中野弓子さん宅訪問 b y 今村報告

わたしのカラダ わたしの権利を国連へ

## スポセンで一緒に運動 b y 増永報告

青木良さん自立生活プログラム

木戸通雄の部屋

マノスタ

協力会費 カンパ

編集後記

# ミッショング インクラーシブ

梅田おにごっこ

2025.  
**10.4 (Sat)**  
**10:00-16:00**



**梅田スカイビル 1階  
ワンダースクエアに集合！**



NPO ちゅうふホームページ  
お申込みはこちらから

## アクセス



## 100年に一度の大規模再開発が進んでいる梅田

今年の「おにごっこ」は、グラングリーン、KITTE 大阪、大阪駅西口など西梅田を主なエリアにして、まちあるき（ウォークラリー）です。昨年までなんばで7回実施、300~600人、障害のあるなしを問わず、誰もが楽しめるイベントです。

メイン会場は梅田スカイビルの1階広場のワンダースクエア。

受付が終わったら西梅田のまちを歩いてもらいます。並行してキッチンカー、フェイスペインティング、インクラスマスター・チャレンジ（福祉体験）コーナー、ミニコンサートを行います。

おにごっこですが、走りません

参加費：500円（介護者無料）子ども（小中高）200円

主催：梅田おにごっこ実行委員会 共催：障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議 協力：アクセス関西ネットワーク

連絡先：Tel: 06-4703-3740 Fax: 06-6628-0271 (NPO法人ちゅうふ) ※今回の企画は三菱財團の助成金を活用しています

## ストーリー

### 合言葉は ミッション インクルーシブ！

2025年 大阪・梅田は100年に一度とも言われる大規模再開発の真っ只中。  
都市の未来を左右するこのタイミングに、障害のある人もない人も“本当に楽しめる街”をつくるため、注目が集まっている。

そんな中、バリアフリーの情報発信を担うAIロボット  
**バリバラちゃん**が誕生！  
大阪市と民間企業・株式会社DPIの協力で開発された彼女は、観光名所や便利スポット、バリアフリー情報を元気にお届けするはずでした――。

しかしある日、何者かの悪意により、バリバラちゃんが誤った情報を学習！  
「新たなバリア」を次々と生み出し、ネットに拡散してしまったのです。  
その結果、利用者からの苦情が殺到し、関係団体は大混乱……！  
この危機を救うべく、立ち上がったのは――  
障害のある人の自立と社会参加を応援する団体「NPO バリバリ大阪」の  
トップエージェント インクル・ハント！  
梅田を舞台に市民参加型のおにごっこ調査がはじまります！  
さあ、あなたもバリバラちゃんに“ほんとうの梅田”を教えてあげよう！  
まちを探検しながら、バリアフリーのヒントを集めよう！

### ミッション インクルーシブ

梅田おにごっこ



### 梅田スカイビル って何? どうやって行くの?

9月上旬  
ちゅうぶHPにて  
バリアフリー  
ルートを公開！

## ワンダースクエアでイベントもりだくさん！

- 10:30 フェイスペインティング  
~13:30 インクルマスター・チャレンジコーナー
- 14:00 ミニコンサート & お笑いライブ
- 15:00 表彰式とラストイベント

イベント時間は変更の可能性があります

参加者  
特典

グルメ キッチンカーのお食事券  
最新版 梅田バリアフリー・マップ

### 参加方法

梅田「おにごっこ」特設サイトのQRコードからお申込みください。  
チームでご参加ください。(基本は4人程度。参加は1名から可)

### 企画内容

梅田周辺を中心とした、まちの探検(ウォークラリー) 10:00~15:00  
チームで協力してミッションをクリアしてください。

当日の受付は10:00開始(11:00までに集合してください)

### お問合せ

NPOちゅうぶホームページ <https://npochubu.com/>

梅田おにごっこ特設サイト 開設準備中

※雨天決行(台風など警報発令時は中止)



# ことし ひさびさ うめだ 今年のおにごっこは、久々の「梅田」！！

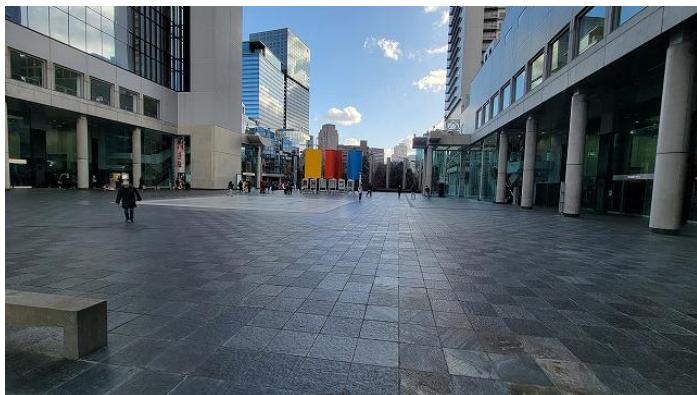
- ・2012年に梅田から始まった「おにごっこ」。以降は阿倍野、天王寺新世界を経て、なんば地区で7回実施。今回、久しぶりに梅田に戻ってきます！名前は「おにごっこ」ですが走ることはなく、車いすを中心としたいろいろな障害をもつ人、子どもなどにも呼びかけるスタンプラリー的なまちあらき企画です。並行してエリアのバリアフリートイレやエレベーター調査も行い、当日参加者や関係者にバリアフリーマップを配っています。企画を通じて障害者の社会参加を進める、まちのバリアフリー化を進めることができます。
- ・「障害者がまちのど真ん中で遊ぶ」「普段行かないエリアにも足を延ばす」「いろんな人と交流する」を大切にしています。

## ●どんな企画？ タイムスケジュールは？

- ・朝10時にスカイビル1階に集合。グループで西梅田のウォークラリーに出発。昼食は各自で自由に。並行してフェイスペインティング、インクルマスター・チャレンジ（さまざまな障害＆福祉体験）もやります。14時～15時はミニコンサート「梅谷陽子さん」と松竹芸能お笑い企画」。15時から表彰式＆何が起こるか分からないラストイベントあり。（企画時間は変更あり。ちゅうぶホームページを見てください）

## ●スカイビルへの行き方

- ・スカイビルはJR大阪駅の北西。最寄りは大阪駅西口でエレベーターあり。昨年までは「地下道を通って行った」人が多いと思いますが、今はグラングリーン（芝生）もあり様変わり。どの駅から行くのかで複数ルートがあります。ちゅうぶのホームページにもアップ予定です。



## ●参加費、申し込み方法

- ・詳細はチラシQRコードから。電話、ファックスでも受付。不明な点はご連絡ください。（石田）

おおさかふくし

じょうれい

かいてい ょうてい

# 大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン改訂の予定

## 当事者の視点で改善を要望しよう！

7月8日大阪府福祉のまちづくり条例審議会が開催され、西尾元秀委員（障大連）代理で、堀が出席しました。

今日は、9月議会で条例改正案を上程し、今年度中に公布し、来年度施行される予定が改めて説明されました。

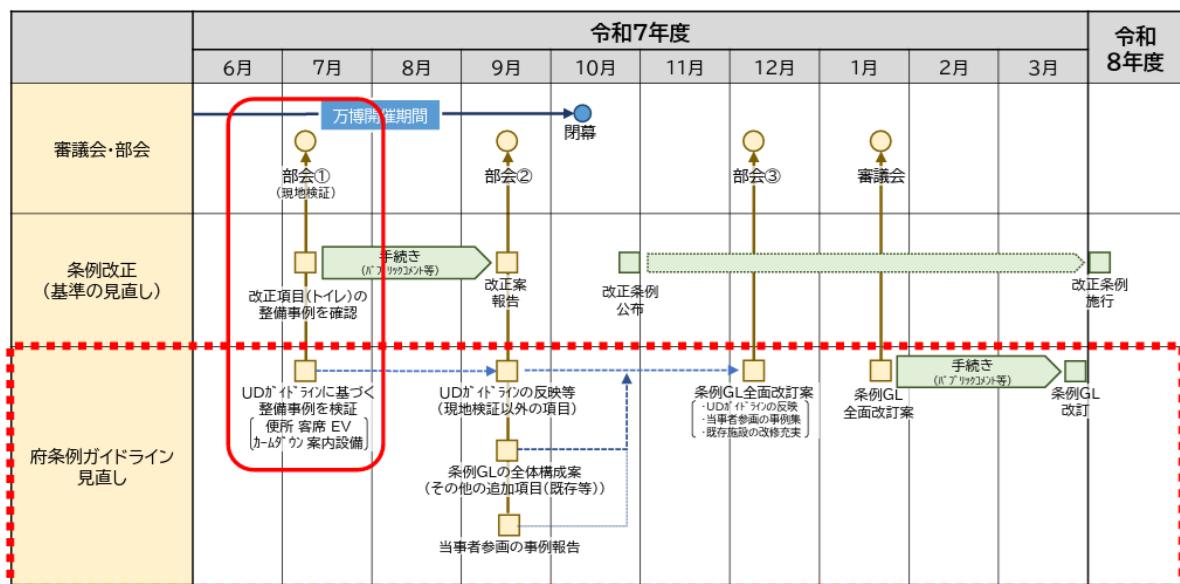
また、国のガイドラインの改訂や、府の条例改正、そして、現在、開催中の大阪・関西方博の先進的なユニバーサルデザインの実践を踏まえて、大阪府のガイドライン改訂の取り組みを実施する予定が示されました。

印象では、かなり抜本的に見直しをされるのではないかと思いました。

みなさん、日々の日常での困りごとや当事者の視点での改善が必要な点など、どんどん意見反映をしていきましょう。障大連交通部会でも意見を募ってきたいと思います。

(文責:堀)

### ■スケジュール(予定)



## 今年度中に府条例改正(9月議会上程予定)

### <見直し項目(素案)>

#### ○トイレのバリアフリー化

- ▶便所内へのフラッシャイトの設置を義務化(延床面積10,000m<sup>2</sup>以上)
- ▶大人用介護ベッドの設置を要する規模の引下げ(延床面積10,000m<sup>2</sup>以上→5,000m<sup>2</sup>超)
- ▶大規模な建築物において大人用介護ベッド複数設置の義務化
- ▶大人用介護ベッドの長さに係る基準の見直し(120cm以上→150cm以上)
- ▶大人用介護ベッドを設置した場合における案内設備への表示を義務付け

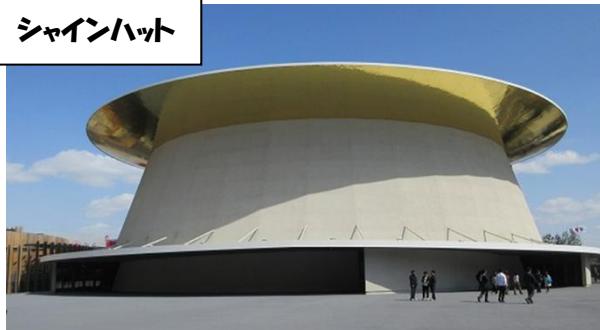
#### ○小規模店舗のバリアフリー化の促進

- ▶義務化の対象となる規模の引下げ(延床面積200m<sup>2</sup>以上→100m<sup>2</sup>以上)  
※道等～居室出入口までの経路のバリアフリー化
- 共同住宅(駐車場)のバリアフリー化の促進
- ▶駐車台数の多い大規模な共同住宅(総駐車区画100区画以上)において幅の広い駐車区画(幅3.5m以上)の整備を義務化

# 万博の実践をガイドラインに反映するために シャインハット 大阪ヘルスケアパビリオンを視察

7月8日の部会では、万博の先進事例から学ぶということで会場を視察しました。堀は、万博のユニバーサルデザインの取り組みに参加してきましたので、特にいろいろ感じることがありました。

シャインハット



←センサー  
ルームは  
階段だらけ  
で、残念でした。

## 【車椅子席の数】

○1850席のうち2%以上を確保されています。  
しかし、平土間部分をすべて車椅子席として運用する  
ことが前提で数を満たしているという状態で、  
上部6席だけで運用されてしまうと、到底、足りない  
です。

○当日、案内していただいた担当の方は、「車椅子席は  
6席です」と説明っていました。また、実際に平  
土間にはパイプ椅子が並べられていて、車椅子席と  
しての運用をされている様子でないので、実際の  
運用では、少なくなっているのではないかと心配になりました。

## 【車椅子席のサイトライン】

○車椅子席の目前のてすりは、高さ80cm以下になっています。てすりが視界を妨げないように配慮されています。

○すぐ前の席で身長170cmの人が立ち上がってもサ  
イトラインが妨げられないように高低差があります。

## 【車椅子席の分散配置】

○上段の左右と、平土間の全方位に分散されています。  
中段への分散ができなかったのが残念です。  
また、予約時や実際に使うときに席を選ぶことができるのかという問題はあります。

## 【ヒアリングループ】

○ヒアリングループが一般席と車椅子席の両方に設置  
されていますが、その旨の案内表示がなかったのが  
残念です。

○車椅子でも耳が聞こえにくい人が居ることをわかつ  
てもらって、車椅子席にもヒアリングループが設置さ  
れたのはとても良かったです。

## 大阪ヘルスケアパビリオン

トイレ内マップ 大阪ヘルスケアパビリオン

- オールジェンダートイレが中心
- バリアフリートイレには介護シートを設置
- 広めトイレ、幼児用トイレなどベビーケアルームの設置など機能分散
- ベビーケアルームは車椅子でも使えるように
- フラッシュライトを設置 災害時の文字表示あり

コンセプトボード 言語案内 地図  
案内図  
入り口  
案内図  
入り口



写真 “福笑い”



写真 トイレプランの作成チャレンジ中



↑ トイレ内のフラッシュライトと文字  
掲示の両方があります。

### UD推進チーム結成

大阪ヘルスケアパビリオンは、UD推進チームを結成し、設計段階からのワークショップ、研修などに多様な当事者が参画しました。

### 福笑い方式で、みんなトイレの案を作成

特に、当事者意見を組み取る手法として画期的だと思ったのは、どんなトイレであってほしいか、それぞれのニーズを語りながら、福笑い方式で、みんなでトイレの案を作ったことです。

### 実際の設計図面案でのモックアップで検討

最終段階では、設計図案を実寸で再現し、実際に車いすなどで通行して不都合がないか検証しました。

### オールジェンダートイレが真ん中

私たち当事者の意見も踏まえて出来上がった「みんなトイレ」はオールジェンダーであることが基本になっています。そして、バリアフリートイレのすべてに介護シートがついています。

### ベビーケアルームの充実で機能分散

バリアフリートイレのファミリー需要が高いために、車椅子などが使えない問題についても、ベビーケアルームを充実させることで課題解決しようとしています。

### トイレ内とトイレゾーン通路にフラッシュライトの設置

地震や火事などの緊急時に聴覚障害者が気づけるようにフラッシュライトも設置されました。

だい かい かんさい がくしゅうかい  
第13回アクセス関西ネットワーク総会学習会

## 関西を、もっと バリアフリーに！

### 障害者の声を届けよう！みんなの力で進めよう！

がつ にち もく かんさい そうかい がくしゅうかい こんねんど つるは  
7月31日（木）にアクセス関西ネットワーク総会と学習会が開催された。今年度からナビの鶴羽  
うんえいいいん くわ も運営委員に加わった。

そうかい ねんどかつどうほうこく そつかつ ねんどほうしん はな あ とく ほうしん れいねん ちが  
総会では、2024年度活動報告と総括、2025年度方針を話し合った。特に方針では、例年と違った  
かたち いけんこうかん ちゅうしん おこ かいざ ていきてき き かいざ  
形で意見交換を中心に行なう会議も定期的にやっていくということが決まった。この会議は  
たよう しょうがいとうじしゃ たよう ひと こうれいしゃ お  
「多様でありながらひとつ」をモットーに障害当事者や多様な人たち（高齢者・ベビーカーを押し  
おやご など かだい かんが こうどう ひと まち  
ている親御さん等）のバリアフリー課題も、ともに考え方行動し、すべての人にやさしい街づくりを  
めざ 目指していきたい。

がつ かんさい しゅうかい かいさい よてい れいねん  
また、10月にはアクセス関西ネットワーク集会を開催が予定されており、例年では、いろんな  
かたがた さんか しゅうかい おこ こんねんど かんさい うんえいいいん  
方々に参加していただく集会を行なっているが、今年度は、アクセス関西ネットワーク運営委員  
きんきうんゆきよく かたたち むじんえき いっしょ かんが いけんこうかんかい まいとし がつごろ かいさい  
と近畿運輸局の方達と「無人駅について一緒に考える意見交換会」や、毎年2月頃に開催している  
きんきうんゆきよく はな あ よてい  
近畿運輸局との話し合いも予定している。

こうはん がくしゅうかい かんさい うんえいいいん いけんていき ほうこく  
後半の学習会は、アクセス関西ネットワークの運営委員から、いくつかの意見提起（テーマ報告）  
かだいきょうゆう きかい やました えき ま もんだい いけんていき  
があり、課題共有する機会とした。山下から「駅での待たされ問題について」意見提起させてもら  
はづす ないよう ほうこく  
ったので抜粋して内容を報告したい。

ま もんだい けいけん  
待たされ問題あれこれ ~みなさんもこんな経験ありませんか？~

#### 『はじめに』

しゅどうくるま わたし てつどう りょう はじ ねん まえ えき なが じかん かいさつぐち ま  
手動車いすユーザーの私が鉄道を利用し始めた30年ぐらい前は、駅で、長い時間、改札口で待  
たされることが多かった。特に、手動車いすユーザーの私が鉄道を利用し始め集会などがあり  
くるま おお とく しゅどうくるま わたし てつどう りょう はじ しゅうかい  
車いすユーザーが、大勢で駅に行くと駅員さんがパニックになっているのを思い出す。最近では、  
ま みじか ま おも こんかい わたし ま  
待たされる時間は短くなってきたが、まだまだ待たされることがあると思う。今回は、私が待た  
じったいけん てつどうじぎょうしゃべつ ほうこく  
された実体験を鉄道事業者別に報告したい。

ねん がつ にち にち じえいあーるはんわせん みなみたなべえき  
2025年7月20日（日）JR阪和線 南田辺駅

じ ふんじえいあーるはんわせんみなみたなべえき つ かくふくかいさつ よこ せっち お  
・12時17分JR阪和線南田辺駅に着いた。拡幅改札の横に設置されているインターホンを押し  
てから1分ぐらいでインフォメーションセンターに繋がる。駅員に伝えるのしばらくインター  
ホンの前で待つように言われる。12時21分再度インターホン越しに担当から連絡あり。南田辺駅  
の駅員を呼び出してるけど繋がらない。もうしばらく待ってほしい。とのこと。12時25分インフ  
オメーションセンターの担当から、駅員と繋がったので、係員が来るまでお待ちください。ア  
ナウンスがあると同時に駅員が駅務室から出てくる。そして駅員に12時27分は、連絡無理やから

ふん い ま とうぜん たいど ま つた じかん かいさつ  
42分で。と言われる。待たせて当然やいう態度。ホームで待っていいか伝えると「時間まで改札  
ぐち ま い ま ばしょ してい いや おも  
口で待っててください。」と言われ、待つ場所を指定されて嫌な思いをした。

ねん がつ にち きん おおさか たなべえき  
**2025年6月13日 (金) 大阪メトロ田辺駅**

9時20分大阪メトロ田辺駅に着いた。9時23分ごろエレベーターでホームに降りた。降りた直後に電車が到着していたが、これはさすがに乗せてくれないと諦めた。(そして、次の8時27分の電車が到着しても駅員やヘルパーさん(黄色い服の人)が来ない。「遅い!」27分の電車が駅を出発して、すぐぐらいにヘルパーさんがスロープを持ってきた。「もう少し、早い電車に乗せてくれませんか?」と言うと、「降車駅の谷町四丁目駅に9時33分で連絡しているので。」とヘルパーさんに言われた。そして、谷町四丁目駅に着いたら、ヘルパーさん(スロープ持ってきててくれたけど)に「お手伝いが必要なのは、視覚障害の方かと思いました。そういうふうに田辺駅から聞いてます。」とヘルパーさんに言われた。

『まとめ』今回、書かせていただいた体験以外にも、たくさん待たされてきた経験がある。障害者は待たされることが当たり前ではない。これからも、待たされることがあると思う。そんな時は「あ～また待たされた。仕方ないね。」と諦めるのではなく『私たちは粘り強く鉄道事業者に訴えていくことが大切だと思う。』

ほか えいがかん ざせきもんだい けんしゅう こうがい こうがい くるま  
他に『映画館の座席問題』『ユニバーサルデザインタクシードライバー研修』『香害は公害』『車  
りょうしゃ てつどうりょうじ ま もんだい などほうこく  
いす利用者の鉄道利用時における待たされ問題について』等報告があった。  
きかんし けいさい ちょうさ しりょうていきょう  
機関紙ナビゲーションにも掲載させていただいている【クリニック調査】についても資料提供  
のみだが共有させてもらった。

【総会学習会に参加した感想】誰もが住みやすい街にしていくために、バリアフリーのことについて取り組んでくれる当事者の仲間を増やしていく必要があるなど感じた学習会だった。

#### ◆アクセス関西ネットワークとは

こうきょうこううつきかん  
公共交通機関や、まちづくりのバリアフリー化を広めることを目的として、2012年に設立し  
ました。関西地区で活動する障害者団体および個人が賛同団体・賛同者となり、関西各地の  
課題を共有し、意見交換・共同取組を行っています。具体的な活動内容を紹介すると、  
春の総会、10月の集会、冬の近畿運輸局との意見交換(移動円滑化評価会議の枠組みで実施)、  
また、それらを運営する適宜会議となります。

# 施設入所者の方に外出取り組みしています！

ナビ 小坪 琢平

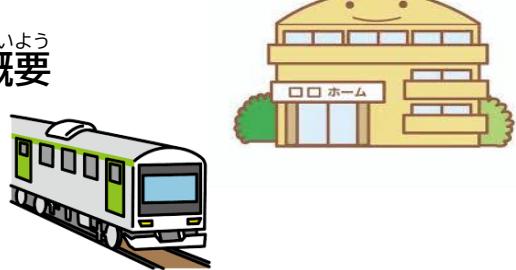
ナビでは今年度当初から「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」に取り組んでいます。きっかけは、2か所の障害者支援の入所施設から、「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」を利用してほしい入所者がいると東住吉区障がい者基幹相談支援センター(=ナビ)に連絡をいただきました。基幹センターのスタッフ2名で施設を訪問し、ご本人とお会いして、面談し外出先の希望を聞き取りこのプログラムを実施しています。

まず「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」の概要を説明したいと思います。

## 「大阪市施設入所者地域生活移行促進事業」の概要

### <どんな事ができる?>

- 地域移行するにはまだちょっと不安が…
- 介護者と一緒に好きな所に行ってみたい
- 施設以外で暮らす障害者の暮らしを見てみたいなど  
障害者支援施設に入所している方に対して計画的な外出の体験を提供し、地域での生活に移行するための支援を行います。



### <どんな人が利用できる?>

大阪市において施設入所支援の支給決定を受けて、指定障害者支援施設に入所している者であって、地域生活への移行検討を希望する者。大阪市が援護の実施者となる方が対象です。

### <事業内容>

- 1 地域生活の体験に係るプログラム策定及び調整等 障害状況の把握、具体的なプログラムの策定、指定一般相談支援事業所等との連絡調整等
- 2 地域生活の体験に係る支援等 体験先の紹介、外出時の同行等地域生活の体験を実施するに当たり必要となる介助・付添いによる見守り等
- 3 地域生活の体験に係る取組の検証等 支援内容の総括、今後の取組の検討等

※ナビではプログラムの策定、具体的に移動支援サービスを行う事業所との連絡調整や検証、総括を主に担っています。

### <利用期間など>

原則6か月間、計画的な外出支援(1か月あたり24時間)を時間数の上限として実施。  
※利用期間等を超える支援を要する場合は、大阪市福祉局障がい福祉課と協議を行い、事業継続の適否を判断することになっています。

## 【Aさんのケース】

### <本人の状況>

Aさん—40歳代男性、知的障害、いずれは地域移行を進めることの了解を取った上で施設入所してもらっている。本人の意思確認がしやすいという理由で施設側がAさんを選定。障害特性を考慮しヘルパー2名で対応。ヘルパー事業所は外部事業所。 ●担当:小坪、西川

### <本人の好きなことや強み>

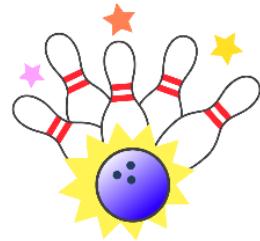
食べる事が一番好き。休日に施設職員とコンビニに買い物に行くのをすごく楽しみにしている。日中は生活介護でねじを袋に入れて袋を閉じる作業や不具合がないか確認する作業。仕事は丁寧できれい。

### <このプログラムを行った目的>

ヘルパーと外出することを通して、経験の幅を広げながら外出を楽しめるように支援し必要な支援を把握する。

#### <プログラム>

- ・長居障害者スポーツセンターで泳ぐ。
- ・あべのキューズモールで買物。
- ・大口イオンモールで買物。
- ・長居障害者スポーツセンターでボーリング。
- ・障害者の絵画教室に行く(浪速区)
- ・施設では経験できないことをしてみよう。夜に外で鉄板料理を食べに行こう。
- ・ジグソーパズルやってみよう。玉造のパズルカフェに行く。
- ・お祭りに行ったが、準備中だったので内容変更、あべのキューズモールに。
- ・グループホームを見学しよう。
- ・交通機関を乗り継いで目的地へ行こう。
- ・施設では経験できないことをしてみよう 万博に行ってみよう。



### <成果>

このプログラムで外出が定期的に行えていることで他の欲求(自宅に帰る)も話されるようになり今までにはなかった事だと施設職員から話があった。外出することが増えて施設では経験できないこと(食事を選ぶ、セルフレジでの料金支払いなど)もヘルパーと一緒に行き経験の幅を広げている。同じヘルパーと外出を重ねたことでヘルパーへの信頼度が日増しに強くなり人間関係が広がっている。

### <今後について>

この事業を通して様々な経験をしてもらうことができた。ヘルパーに対する信頼も厚くなっている。振り返りの際に来月でこの取り組みが終了することを伝えると大きく落胆されたため月1回でも自費で移動支援を利用し外出が継続できないか後見人に施設側から確認してもらうことになっている。

## 【Bさんのケース】

### <本人の状況>

Bさん—50歳代男性。脳挫傷の影響で手の指が動きにくく言葉が出にくい。  
受傷後、通勤寮に通いながら作業所に通所されていたが、施設入所した。本人は施設での生活を気に入っており、今後も施設で生活したいと思っている。 ●担当:島岡、平沼

### <本人の好きなことや強み>

戦隊ものや仮面ライダーが好き、80年代の歌謡曲も好き。

カラオケでは氷川きよしや泳げたいやきくんをよく歌う。

本人は非常に温和な性格で相手を気遣うことができ、自分の好きな事やりたいことを相手に伝えることが出来る。

### <目的>

プログラムで楽しみながら外出をして、地域で生活すれば自由に外出できるという事を体感してもらう。また地域の資源や人に触れて地域で生活するということのイメージを作りやすくする。

### <プログラム>

- ・ヒーローショーを見る。
- ・天王寺動物園へ行く。
- ・イオンへ行き、買い物。おもちゃや服を買う。
- ・なんばのヒーロー玩具研究所へ行く。
- ・もくれんマスター(生活介護)を体験。
- ・仮面ライダーの映画を見に行く。
- ・昔住んでいた場所に行ってみる。
- ・グループホームを見学する。
- ・京都太秦のヒーロー館へ行く。
- ・大阪城公園へ行く。
- ・長居スポーツセンターで地域の障害者と交流してみる。
- ・野球観戦に行く。
- ・明治なるほどファクトリーへ行く。
- ・戦隊ものの映画を見に行く。
- ・なんばオタロード散策
- ・日中活動(就B)を見学
- ・万博に行こう。



## <成果>

本人はこのプログラムを非常に楽しみにしていて、ヘルパーとの関係も非常に良い。行きたいところへ行くという外出を通じて服の試着をする経験や、ほしいＤＶＤを探しに行くといった新しい経験もしてもらっている。外出した終わりに次の外出時に食べたいもののリクエストなども言ってくれるようになったり、地域の生活介護を体験した時も楽しかったと言われたり、G　H　見学のあと時間が余ったので体験した生活介護に遊びに行ったりと少し変化もみられる。

## <今後について>

外の生活介護に通うことについてはあまり考へてはおらず、たまに遊びに行くくらいがいいと言っている。今後も施設で生活したいという意思は変わらず、後見人との話でも本人から今の施設に居たいと意思表示があったと聞いている。

# 「施設入所者地域生活移行促進事業」の課題

## ○もっと広げる必要

3年前に始まった制度だが、大阪市で利用した方は4名程度と、まだ少ない。

## ○地域移行の希望がある人が選ばれるわけではない

本人が「体験外出を利用してみたい」と希望が言えるようなことは情報提供の問題もあり、困難。施設側も地域移行を行うことに積極的な施設ばかりではなく、プログラムを受ける障害当事者の選定は施設側が行うため、施設側が「やりやすい」障害者が選ばれてしまう傾向になってしまってはいかない。

## ○制度利用後の継続的な外出取組につながらない

この事業の利用が終わってしまうと、知的障害者は移動支援の制度利用が認められていないため、自費でしか施設からの外出が出来なくなってしまうところに制度的な課題を感じる。

## ○地域で生活を支える社会資源が少ない

この事業を利用しても外出をしたことで経験の幅が広がり、次のステップに進みたいとなったとしても受け入れられる社会資源がまだまだ少ない。

## ○地域移行への親の不安

社会資源が少なく脆弱であるが故にご家族も施設からの地域移行には不安があり、やっと入れた入所施設を地域移行してしまったら、うまくいかなくなった後戻れるところが無くなってしまうのではと、反対してしまう。

様々な課題を乗り越えるためにも、ぜひこの制度を大きく育てて利用する人をたくさん増やしていくことができればと考えています。

ナビでは、引き続き、地域移行への取り組みを進めていきます。

しゅうねん さい  
ちゅうぶ 40周年に際して

# これまでのちゅうぶ、これからちゅうぶを語る

じむきょく りじ  
～事務局・理事のインタビュー 第12弾 石田義典(事務局)

堀(編集部):ちゅうぶは2024年12月40周年を迎えました。40周年に際し、事務局や理事の方に、これまでのちゅうぶを振り返り、ちゅうぶの将来を語つていただくという趣旨です。よろしくお願ひします。

さて、石田さんは、ちゅうぶを作り、育てた中心的な存在で、今まで、40年間、事務局長を務めてこられています。

学生時代からの障害者の世界一筋と伺っていますが、世の中の隅っこに置かれている障害者と付き合った人生をかけたのは、なぜなのか、とても興味深いです。まず、きっかけは何でしたか。

## ひとかかあおもしろ 人との関わり合いが面白かった

石田:僕は、山口県宇部市出身で、高校時代は剣道部で、社会問題に興味がある方ではありませんでした。大阪外語大学のベトナム語学科に1977年に入学し、東京に1か月以上自転車旅行に行くとか、気楽な学生時代を満喫していました。

ある時、寮の同室の同じ1回生から、「障害者の介護に呼ばれているけど、お前もどうだ一緒にいかないか」と誘われて、李義明さんという自立生活に入ったばかりの障害者が一人暮らしている文化住宅に行きました。

これをきっかけに、大阪青い芝の会(脳性麻痺者の会)やグループ・ゴリラ(自立障害者集団友人組織)に出会うことになりました。

李さんが住んでいる生野の街は在日韓国・朝鮮人が多く暮らしていて、学生だけでなく、在日の人々とかいろんな人がいました。大阪青い芝の会の事務所も、ゴリラの20~40歳ぐらいの労働者や学生などが出入りして適当に寝泊りする感じで、なんとなく、そこ

かかひとびとこせいかた  
に関わる人々や個性の固まりみたいな障害者達がおもしろかったです。

## まちろこつきよひ 街はバリアだらけ、露骨な拒否



まちまち  
街もわかりやすくバリアだらけでした。  
えきぜんぶかいだん  
駅は全部が階段。  
きっきてん  
喫茶店にいってもガラガラなのに、  
まんいんごわ  
満員とお断りされるし、バスに乗

ろうすると、車椅子を見かけたとたんにスピードをあげて通り過ぎるということが日常茶飯事でした。

でんしゃりよう  
電車を利用しようとすると駅員と喧嘩でした。でも、駅員が協力しないとか関係なく、どんどん乗ってしまうのが青い芝でした。

## にんきぼ 100人規模での大交流キャンプ

堀(編集部):当時の大阪青い芝の会はどんな活動をしていたのですか。

石田:大阪青い芝の会ができる間もなく1973年から1998年まで26年間やったのが、大交流キャンプです。大阪青い芝の会は、北部地区、東部地区、南部地区、中部地区(ちゅうぶの前身)とあって、各地区ごとに100人単位でやっていました。

びわこあわじしまわかやまけんかたせんぜん  
琵琶湖とか淡路島とか和歌山県加太とか、全然、バリアフリーでないところに、みんなしてバスで行きました。

今と違って、適当で、30人ぐらいの障害者もボラ

ティアの学生なども三分の一ぐらいは、その日初めて来る人でした。障害者も、視覚、知的、精神、車椅子とかいろいろで、キャンプだけに参加する人もいました。わちゃわちゃやっていましたね。



**堀(編集部):**私も学生時代に大交流キャンプの話は聞いたことがあります。有名ですね。  
障害者の運動にのめり込むことになったのは他に何がありましたか。

### 自己否定 青い芝の本を読む

**石田:**障害者運動というよりは、目の前の具体的な障害者を通じて、障害者の問題を考えるのが面白かったです。

青い芝というのは、重度の障害者が学生を集め、自立生活をする。そういう自立障害者が中心で運動を作る世界でした。

青い芝の障害者の主張で「健全者は差別する側である」そういう社会の差別構造を問題にしなければならないという発想があって、自分の心に刺さりましたね。当時は大学には学生運動の名残もあって、「自己批判せよ」とか「自己否定」とか、流行っていました。

僕も、高校までの自分を変えないといけない。見つめ直さないと、青い芝の本も読みました。

### 目の前の障害者のギャップ

でも、ちゅうぶ地区の青い芝で出会った目の前の

障害者は、本での青い芝活動家のイメージと大きなギャップがありました。

たとえば、介護に行った李さんは、学校も行ってなくて、難しい言葉はわからない。活動家というよりは、地元の鶴橋でパンやキムチを売り歩いて、いろんな人々と共に日々の生活を楽しむ感じでした。飲むのも好きで、学生寮の学習会で話題提起を頼んでも、迎えにいたら、べろべろに酔っ払っていたということもありました。

当時のちゅうぶ地区の障害者は、会議で集まつても、座位がとれずに文化住宅の畳の部屋で寝転がっているだけで、障害者同士の会話もままならず、会議が成立しない状態でした。レジメがあつても字が読めない人が多かったです。青い芝例会に集まる障害者も青い芝の綱領、有名な「愛と正義を否定する」なんて言葉を知らない人もいました。

「なんだこれは！！」と思いました。

ちゅうぶは障害者の主体性という意味では、各地区で当事者一番弱かった状況でした（北部は入部香代子さん、東部は森修さん、斎藤雅子さん、南部は坂本さん、松井さんとかいました）。ある意味、ちゅうぶ地区では青い芝という確固たる固まりがないにも等しく、障害者が中心で活動を展開するということが困難でした。



障害者の生活を一緒に考える チーム制

そこで、障害者がやりたいということに基づいて単に介護をするだけでなく、障害者の生活を介護者も一緒に考えていく体制を作ろうと、チーム制が始まりました。

例えば、瀬古幹子さんの生活を支えるために、一緒に生活史を作るとか、大学に行って話をするとか、

瀬古さんという重度障害者を中心にして、障害者が地域で生きることをテーマにみんなで活動をするという形で進めました。

## 西川和男の存在

僕に大きな影響を与えたのは、西川和男(ちゅうぶの赤おに利用者 石田さんの義理の弟)の存在でした。彼は、普通の会話が通じませんでした。長く子どもの施設に入っていたこともあり、最初は耳が遠い(難聴)こともあまりわかつていなかったです。

あるとき、子どもの言葉の習得について知識がある学生介護者が和男がどの程度言葉を知っているのか調査しました。すると、「こんにちは」という挨拶を知らない、新聞は見ていて単語を少しは知っているのに、「て、に、を、は」は理解していないことがわかりました。



これは、衝撃でした。最初は、言葉を勉強する時に、小学1年生の教科書からやろうとしたのですが、和男には難しすぎたのです。

人間は、赤ちゃんの時から、周囲がしゃべるのをじっと聴いて、自分でも少しづつ発語しながら、習得し

ていくわけです。しかし、和男は聽こえていなかったこと、施設の中で限られた会話しかなかったので、生活の中の基本的な単語や日本語の用法が習得できなかったと考えられます。

私たちとは、和男の知らない言葉を調べて、一つ一つ丁寧に説明するという取り組みをやりました。彼は勉強が好きでした。もっともっと勉強したいというので、夜間中学校学闘争も一緒にしました。こういう自分の前の障害者の生活をどうするのか、一緒に創って行くのが面白かったです。



## 関西ゴリラの解散 大阪での三者共闘

石田:もう一つ、当時の大阪の青い芝運動の大きな動きがあります。

関西青い芝が、1977年(僕の大学入学の年)に緊急アピールを出し、ゴリラを解散しました。ただ大阪青い芝の会は在宅の重度障害者が多く、介護者組織を切る事は多くの障害者の「死に繋がる」として、ゴリラを解散することに反対し関西青い芝を脱退しました。そして、青い芝、ゴリラの共生共闘を掲げ、りぼん社(障害者情報センター)も含めて、三者共闘を目指しました。

【緊急アピール】は、主に3点の批判でした。  
①能力主義によるランクづけ、②組織の没個性による馴れ合い主義、③一部人間にによる組織の私物化。また、

一部の人間だけに情報が集中するなどの専従体制や運動の中での障害者の引き回しなど。（「関西障害者運動の現代史」生活書院に詳しく書いてあります。）

運動としては、混乱期ですが、その中で、新しい活動を模索し、各地区で障害者解放センターを作ろうという方針が出されました。

そして、障害者の実態の把握と組織体制の整備を目指して、「生活要求一斉調査活動」をやったということがあります。

その運動が、中部障害者解放センター（現 ちゅうぶ）を作ることにつながったわけです。

### 生活要求一斉調査活動

堀（編集部）：「生活要求一斉調査活動」はどのくらいの規模で何が分かったのですか。

石田：1979年から1981年にかけて大阪府全体で200人以上は調査をしました。ちゅうぶの持ち分だけで、50人はいたと思います。

在宅の障害者を訪問して、一人一人の生活を、3～4日、一回3～4時間もかけて聞くのですが、言語障害もあり時間がかかりました。

聴いたのは、生活史と現在の生活で、○今までどんな生活でしたか、○学校に行っていましたか、○養護学校ではどうでしたか、○今、お風呂はどうしていますか、○食事の介助はどうしていますか、○福祉の制度は何を使っていますか、○働きたいですか、○今、何をしたいですか、とかの設問です。この調査で、初めて、介助はほとんどお母さんがやっているとか、学校にも満足に通えていないとか、お風呂にはほとんど入れていないとか、様々な実態が浮かびあがってきたんですね。

若い芝の障害者の介護に入っているといつても、担当した2～3人の狭い世界しかみんな知らないわ

けで、はじめて、在宅の障害者が置かれた実態を自らにできたりして、年金、福祉や住宅の制度や課題などを初めて知って、視野が広がりました。

### 野々村さん問題がちゅうぶ開設へ

石田：そして、生活要求一斉調査の取り組みの中で、野々村さんに出会いました。野々村さんは、東住吉区に住む在宅障害者でお母さんが介助をすべて引き受けたが、心臓が悪いお母さんの身体が限界で、このままでは施設入所しかないという追い詰められた状況にありました。

なんとか、施設入所を回避しようと、文化住宅の2階（現：ナビの事務所、元中部障害者解放センターの2階）に野々村さんに生活してもらい、自立を目指して、介助体制を組みました。

ところが、お母さんからも引き離されて、介助者への指示をしないといけない生活に野々村さんは精神的に追い詰められて、自立生活への道は断念せざるを得なくなりました。

野々村さんの問題の総括が、中部障害者解放センターを作ることにつながりました。

それまでの障害者の自立は本人の能力と根性によるところが大きかったと思います。しかし、普通の在宅障害者が自立できる環境をつくらないと野々村さんのような人は自立できない。野々村さんの問題はみんなの問題だと思ったのです。



1992年中部障害者解放センター

のむら みんなで野々村さん問題をきっかけにみんなが集まる場所を作ろう、解放センターを作ろうと盛り上がりました。野々村さん問題を行政にも突きつけました。介護制度の問題なども考えてほしいと提起しました。それまでの青い芝の運動では、行政へは糾弾するばかりで、制度を作つてほしいという要求はありませんでしたが、このことで、運動のあり方の大きな転換にもなりました。

生活要求一斉調査をとりまとめた結果の行政交渉もありましたが、当時は、行政が小さな障害者団体の声を聞くということはありませんでしたので、自治体や教員の労働組合に同席してもらったのはとても大きな力になりました。労働組合などと一緒に運動するのもこの時ぐらいから始まりました。

こういう流れがあって、僕は障害者運動にのめり込むことになったわけです。

## ちゅうぶのオープンには600人が

堀(編集部):ちゅうぶができるのは1984年12月でしたね。



石田:設立セレモニーには東住吉区民センターに600人が集まってくれ、大阪だけでなく、全国から支えを受けていました。

この時の中部障害者解放センターの代表は在宅障害者の道野孝之さん、事業主が西川和男さんでした。挨拶は大阪青い芝を代表して坂本博章さんでした。

た。

ちゅうぶを強化しないといけないと、尾上浩二さん(現 代表理事)と、野谷靖さん(ゴリラ のち後にピアおさかしょいん なんぶ はい大阪職員)が南部から入ってくれました。



1991年大阪市交通局交渉

## 運動と事業の両方を大事にすること

堀(編集部):そうしてちゅうぶができて、40年で大きくなりました。グループホーム、生活介護、介護派遣、相談支援と様々な事業も展開しています。40年のなかで石田さんが大事にしてきたことは何ですか。

石田:事業と運動の両方を大事にするということ、いろんなところとの関りを大事にして関係性を閉じないということです。

障大連とかJILとか、DPIとか、いろんな団体とそれなりに付き合ってきました。特に、障大連との関係は大事で、ちゅうぶは障大連の中での中心的な存在としてあり続けるべきだと思っています。だから、障大連オールラウンド交渉は、無理やりではないけれど、基本的には全員参加しています。

## 障害者の制度を守る闘い

石田:ヘルパー時間数上限問題や自立支援法の闘い、介護保険制度との統合反対の闘いなどでも、極力全員動員し、他の団体と一緒にになって闘いました。

そういう運動が象徴的ですが、事業や目の前の取り組みだけでは、障害者の制度は守れていなかったと思います。

障害者福祉予算はこの20年で4~5倍も伸びたと言われていますが、明らかに運動の成果だし、政治にも関わりながら取り組んでいるからだと思います。

事業では、制度はますます複雑になってきていて、理解し対応するだけで一苦労です。

一方で、儲け中心の事業所が増えています。簡単に事業所ができてしまって、障害者の運動では常識的な、障害者権利条約のこと、社会モデルやインクルーシブ教育、地域移行のこと、何も知らない事業所が山のようにあって、危うく感じます。

その中で、ちゅうぶが存在すること、障大連が真っ当な運動と事業ができるように各団体を支援していることが、とても重要だと思っています。

## 自立支援協議会の運営に関与

大阪では、基幹相談支援センターの委託を障害者団体の事業所が受けて、自立支援協議会(\*)の運営にも深く関与しています。これは、運動の大きな成果だと思っています。運動と事業の両方を大事にしてきたから、できていると言えます。

(\*編集者注:個別相談事例を通じて明らかになった課題を行政、事業者等の関係者で共有し、基盤強化に向けて取り組む機関で法定化されている)

CILもこの10年~20年で増えていない。もちろん、星空(愛媛)、ひかり(鹿児島)とか元気なところはあります、全体的には、CIL部門が無くなったりする団体もあり、危機感を感じています。

ピアカンとか、ILPとか、熱心に語って広げていこうと言う勢いが最近は感じられない。講座とかの取り組みはあっても、そもそもピアカンはすばらしいんだということを知れる機会がないなって感じています。

CIL、ピアカン、ILPとはの説明も、各団体のWEBでは決まりきったことしか書いていない。自分の頭で考え、取り組みを作り出すエネルギーが全体にあまり感じられないのが残念だと思っています。

アメリカはトランプの施策で、CILは相当に厳しい状況に置かれていて、必死の運動を展開しているようです。日本においても政治状況をみると、気が付いたら自立生活やインクルーシブに対して逆風が吹いているということも予想される。それにちゃんと抗える運動と事業を作っていくのかというのがとても大事だと思っています。

## ちゅうぶの課題 中堅層が弱い

堀(編集部):ちゅうぶの課題はなんでしょうか。

石田:中間層(次の事務局候補)が弱いところが問題で、現在の2~30代が育ってくれるかという人材育成が課題です。

## 障害者と健常者の関係

石田:それと、障害者と健常者の関係、これはちゅうぶだけでなく、各団体にとって常に課題なのではないかと思います。



ちゅうぶでいうと、青い芝、ゴリラということから始まって、あとでCIL的なものが入ってきたということもあり、事務局長はずっと健常者である石田です。

昔は、ゴリラには発言権はありませんでした。集会で、僕が発言すると兵庫青い芝の人から「健全者はしゃべるな！」って言われたのを覚えています。

障大連の交渉が始まった時に、「僕もしゃべっていいんだ」と思いました。

大事なのは、一緒にやっていくときに、それぞれが主体性をもって、ちゃんと考えながら、関わることです。

**堀(編集部):** 私も新人研修では、障害者問題や運動を自分でとらえること、立場性を明確にして主体性をもって関わることを伝えるようにしています。

**石田:** 健常者が障害者に言わされたことだけをする黒子なのでなく、一緒に運動を作るのが大事だと思っています。



**活動の基本は自立障害者を増やすこと**  
**堀(編集部):** これからちゅうぶの方向性、展望みたいなことを教えてください。

**石田:** ちゅうぶの活動の基本は、自立生活をする障害者を増やすことです。しかし、障害者の自立はむしろ40年前より困難になっているのかもしれません。

昔は、施設や親の管理の元での生活があまりにも酷くてそこから逃げ出したいということがありました。今は、障害者自身が困っているということを感じにくくなっているのかもしれません。



普通なら、放課後はたまに寄り道したり、友達としゃべったりして帰るのだろうけど、障害の軽い子も含めてみんな放課後ティサービスへ行っています。昔は障害児も学童保育(大阪市はいきいき放課後事業)

に行っていましたが今は車の送迎で家⇒学校⇒放課後⇒家で管理されています。その流れで、卒業すると生活介護や就労継続Bとかに行くようになります。

その中で生きる限り、親も子も困らないし、問題意識も持ちにくいと思います。

### 制度の枠内での生活に馴らされている

**石田:** サービスがたくさんありますが、そもそも、障害者が何がやりたいのかというよりかは、制度の枠組みにあてはめて考えるのが当たり前になってしまって、障害者もそれに馴れさせられていますね。

だから、経験の幅もとても狭いし、何がしたいということもよくわからなくなっています。障害者が自立生活をしたい、今の生活を変えたいという意思がないと、何も始まらないのだけど、この流れに乗っていると、一人暮らししようとか、もっと何かをしようという意思が育たないですね。僕らの時代では、友達と竹敷の中で基地を作ったり、近所のおっちゃん、おばちゃんとも遊んだりとかもあったけど、今は、健常者もそういう関係性が薄くなっている時代背景はあります。だけど、障害者はさらに経験や人間関係が狭められています。

### 日常を突き抜ける経験が必要

**石田:** そういう意味では、日常を突き抜けるような体験ができるきっかけを提供できるような取り組みをしたい。

例えば、たくさん的人が参加できるわけないけれど、他のCILがやっているアジアの障害者との交流とか、昔、メインストリーム協会がやった障害者甲子園とか、何かやりたいと思います。真面目に自立支援の取り組みだけをしていても、なかなか自立にはつなげられない、そういう状況だと思います。

### おにごっここの意味

**石田:** 実は、梅田おにごっこも、そういう意味を込め

たイベントです。

送迎されることに馴れて、障害者はあまり電車にも乗らないし、街にも出でていない気がします。イベントを機に日常ではできない体験をしてほしいんです。

それと、サービス事業所はたくさんあっても、車椅子の障害者や医療的ケアが必要な人や、行動障害がある人が地域で生きるためのサービスは、まだまだ足りないです。

サービスを単に提供するだけでは、他の事業所にもできます。積極的な自立を促す取り組みをするとか、現在のサービスでは提供できないサービスをするとか、そういうことをしないと、ちゅうぶの存在意義がないと思っています。



## 障害者と一緒に面白がれるスタッフに

堀(編集部):最後に若い職員へのメッセージをお願いします。

石田:しんどい取り組みも、障害者と一緒に楽しめる、面白がれるスタッフに育ってほしいです。

例えば、毎年、海レクで須磨にいっています。

障害者の希望が多いから、取り組むわけですが、ちょっとしんどい取り組みとも言えます。スタッフがしんどいからやめようと言うと、それで終わりです。

健常者も海に行く人は減っているようですが、行こうと思えば、海にもプールに行けます。しかし、障害者は普段のヘルパーと二人で海に行くのは大変で、

行動の選択が狭められています。

行きたいという障害者の希望を聞いて、「オモロインちゅうか」と一緒に面白がって、毎年続けて、バリアフリー要望活動もしてきました。

昔は、段差がある危険なシャワーだけだったし、車椅子の行く手を阻むPゲートもありました。着替えは、松林の中にブルーシートをはって場所を自分達で作りました。

今、須磨の海水浴場は、バリアフリーが進んできて、これはと無関係でないと思います。

障害者も健常者も面白がって一緒に活動を作っていく、しんどいけどやっていく、トラブルも面白がる、そういうことに興味をもつ職員に育ってほしいです。

## 他団体とどんどん繋がりをつくる

石田:それと、ちゅうぶは大阪の障害者運動の中心にあり続けてほしいと思っています。だから、みんなには、そういう意識をもって、いろんな団体とつながり、今の自分にそういう力がなくても、どんどんいいところを教えてもらって、学んでいくってほしいと思います。

堀(編集部):長時間、貴重な話をありがとうございました。



# なかのゆみこ たくほうもん 中野弓子さん宅訪問

6月20日(金)に、増永、岩見、杉本(萌)、松倉、今村というメンバーで、中野弓子さん宅にお伺いしました。当曰は中野弓子さんと喜運瓜破駅で待ち合わせして、中野弓子さんの家に向かう途中のイオンで昼食を購入して行きました。

## えきちか しえいじゅうたく 駅近の市営住宅

近くにイオンがあるので便利だなあと思いました。中野弓子さんの家はバリアフリーの市営住宅で1階にあります。まず、玄関は、車いすでも出入りしやすい扉になっていました。玄関の扉を開けるととても広く、車いすのままでもスムーズに移動できました。

## くるま たいおう だいどころ 車いす対応の台所

また、車いすでも作業しやすいようにキッチン台は低くなっていました。収納しやすいように工夫されました。まな板が置けなかったのを置けるように工夫したそうです。トイレやお風呂場も見せていただきました。



## リフト付きのお風呂場

何とお風呂場にはリフトがついていました！中野弓子さんによると、リフトの申請に3ヶ月かかったようです。入居されるときに設置したようです。

いろいろな話も聞きました。

毎日の料理の話や部屋のこだわりの場所はどこかなどを中心に聞きました。

料理は、料理の本を見て、おいしそうなものを選んで、ヘルパーさんに指示を出して、毎日作っているようです。



## なかのゆみこ 中野弓子さんのかだわり

こだわりの場所は、壁だと言っていました。思い出の写真やアートバザールというイベントで好きになったアーティストの絵などを飾ってあることだそうです。

なかのゆみこ  
中野弓子さん、今回、自宅訪問させて頂き、ありがとうございました。

## 訪問を終えて

僕は、今、グループホームに入居することを目指しています！

まだまだ一人暮らしに対するイメージが少ない僕ですが、今回中野弓子さんの家に訪問させてもらって、今までよりもっと一人暮らしのイメージを持つことができました。僕もいつかはできるかな？

いまむら けいご  
今村 圭吾

## 一緒に行った増永さんの感想

やっぱり車いす用住宅の方が動きやすいなあとと思いました。台所が広かったです。駅からも近く便利そうだと思いました。



# ふくごうさべつ ことば し 「複合差別」という言葉をみなさん知っていますか？

わたしは数年前にDPI女性障害者ネットワークの藤原さん(視覚障害)の講演を聞いた時に初めて知りました。

「これが複合差別だと、女性であり障害者である自分も、その講演を聞くまではあまりはつきりと自覚してこなかったのですが、実際に女性であり障害者であることによる複合的な困難さはあまり注目されていません。だんだんと様々な方の事例を聞く中でこれはかなり根深い課題だと気づいていきました。

今回下記のようなタイトルの報告会があり、参加してきました。



## 「わたしのカラダ、 わたしの権利を国連へ！」

7月27日(日)、女性障害者ネットワーク主催で、

昨年10月の女性差別撤廃条約(CEDAWセドウ)の日本報告の審査に対して女性障害者がおかれた複合差別の現状を訴え、障害女性の権利を女性差別撤廃条約に反映させるロビー活動の報告会がありました。ロビー活動とは国連委員会の決定に影響を与えるために委員などに働きかける活動です。

登壇者は、伊是名夏子さん、住田理恵さん(兵庫ピープルファースト)、南由美子さん(DPI女性障害者ネットワーク)、藤原久美子さん(DPI女性障害者ネットワーク)の4人でした。

伊是名夏子さんは骨形成不全という障害を抱えながらお子さんが2人いて、子どもを産むまでの間や産んだ後に受けた差別事例の紹介をされていました。「日本の障害者は医療の対象でしかないと思った」と仰っている伊是名さんの言葉が重くのしかかってきました。

結婚をする際に相手の両親に結婚を反対されたこと、産婦人科では「なんできたの？」という目で見られたこと、産婦人科医が「妊娠の可能性があるの？」と、まさか！のような反応をしてきたこと。

障害のない女性だったらもっと違う対応であったと思います。伊是名さんの話の1つ1つがとても印象に残ると同時に心に刺さるものでした。

私は旧優生保護法を問うネットワークの活動に参加させて頂き、現在まで活動を行ってきましたが女性の障害者が子どもを産むこと・育てることに否定的な社会はまだ続いているように感じます。2016年の国連審査で出された勧告が大きなきっかけとなり、優生保護法による強制不妊手術への国家賠償請求に繋がり、2024年7月に最高裁で原告側の完全勝訴判決に繋がりました。

女性障害者が粘り強く訴えることによってこのような結果につながったのだと思うと、自分や女性障害者が、なかつたことにされてきた・見えていないことにされてきたことに声を上げていくことの積み重ねが大事だと感じます。とは言っても、相手のことや家族のこと、関係者を思うとあんまり大きな声で言えないことが多いのではないかと思います。声を上げなければいけないのは分かっていても、難しい人が少なくないと思います。一筋縄ではいきませんが、今回の報告会を出発点として、女性障害者としての困難さについてもっと事例を知り、複合的な困難さの事例を知った先の活動を何か作りあげていけたらと感じています。

(文責:松倉)

# いっしょ うんどう きかく スponcenで一緒に運動をしよう企画

7月4日に岡嶋さんとナビの東さん、堀さんと私(増永)で長居スポーツセンターに行きました！  
腕を動かす運動をしたくて、いろんな人に声をかけて実現しました。



スポーツセンターの中にある広場でテイクアウトしたお弁当を食べその後、新館に移動し  
バドミントン・バスケ・爆弾ゲーム・車椅子サッカー・キヤツチボールなどなど、  
いろんなスポーツをしてみんなで楽みました ✌️⚽️



楽しく沢山の運動ができて体もしっかり動かせたので良かったです 😊  
私は野球が好きなので、キヤツチボールが一番楽しかったです。⚾️  
また企画していきたいと思います！！

(文責 増永 典子)





じりつせいかつ  
自立生活センター・ナビ  
からのお知らせ

## あおき りょう じりつせいかつ 青木 良さん自立生活プログラム

じぶん きかく  
～自分のやりたいことを企画しました！

みなさんこんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。今回は、障害者活動センター青おにに通われている青木良さんの自立生活プログラム(ILP)報告です。

青木 良さん 25歳。障害名は、デュシェンヌ型筋ジストロフィー。(※筋ジストロフィーとは、筋線維の破壊・変性(筋壊死)と再生を繰り返しながら、次第に筋萎縮と筋力低下が進行していく遺伝性筋疾患の総称。デュシェンヌ型の他にベッカ一型などがあります。)NPO法人ちゅうぶが運営するグループホーム・リオでヘルパー制度を利用しながら生活されています。

2020年にリオで生活をスタートして以来、山下が自立生活プログラムを担当させてもらっています。これまで「自分の気持ちを言えるようになる」「仲間を誘ってカフェに行く」などのプログラムを行なってきました。山下とは定期的に相談するようにし、その中で青木さんのやりたいことを一緒に考えてきました。青木さんから『いろんな人を誘ってカラオケに行きたい』という希望が出たので、一緒に企画を考えていきました。今回は、カラオケだけが目的ではなくて、いろんな人とコミュニケーションをとるという目的もあります。

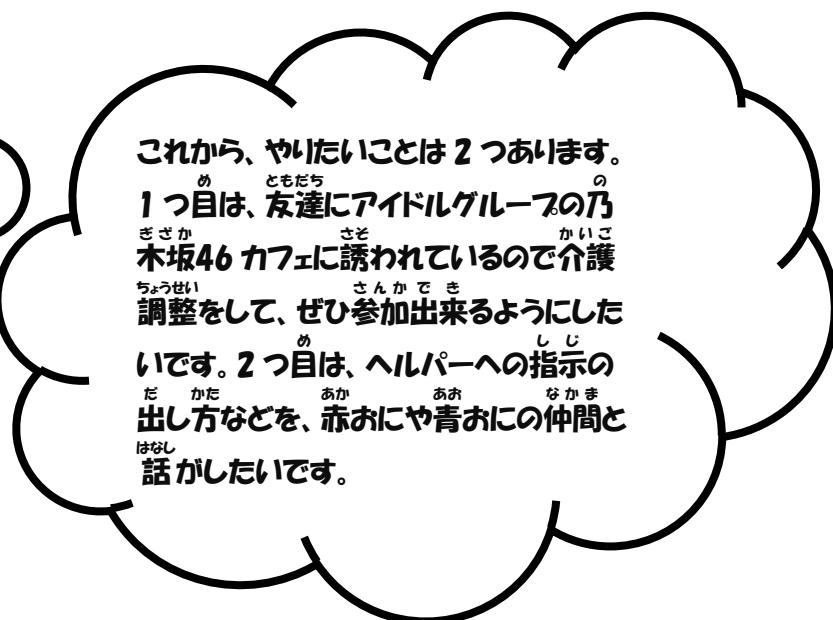
まず誘いたい人を決めて、企画の趣旨、日時などを青木さんが自分で文章を考えてLINEを送りました。参加人数が決まったところで平野区のカラオケ店に電話をしましたが、部屋が2つに分かれるということで、それではみんなと交流が出来ないので平野区のカラオケ店は諦め、住吉区のカラオケ店をインターネット予約しました。ちゃんと予約が出来ているかということと、車いす数名が行くことを電話で確認しました。



でんわ 電話するのは緊張したけ  
きんちょう  
つた  
ど、うまく伝えることが  
できよ  
出来て良かったです。



カラオケを歌い切ったあとは「ストレス解消法」や  
『泣くほど嬉しかったこと』をテーマに、みんなで  
語り合いました。



## ○山下の感想

青木さんは、「○○さん(カラオケに誘った人)から連絡がありました。」など、すぐに山下に教えてくれたり、ヘルパーさんや青おにのスタッフに手伝ってもらいながらお店に電話もしてくれました。今回の企画を通して、いろんなことに自信を持ってくれたように感じました。これからも、いろんなことに挑戦してほしいし、サポートしていきたいと思います。

~~~~~  
**自立生活プログラム(ILP)とは?** 多くの障害者は障害があるというだけで、ひとりで買物に行ったり友達と遊びに行ったり、仕事をするなどのごく当たり前のことを経験する機会すら失ってきてします。障害があることで制限された生活によって奪われてきた外出・料理・遊び・金銭管理など様々な経験を自立生活をしている障害者がリーダーとなり楽しみながら取り戻していくプログラムです。

# きどみちおへや 木戸通雄の部屋



読者の皆さんこんにちわ。ここに最初に謝罪しておきます。天神祭・須磨海水浴場の写真を掲載できなかったのは、この8月号通信を作るのが早かったためと、天神祭・須磨海水浴場の写真を掲載すると8月を超えるか7月の締め切りに間に合わないと判断しました。ご了承ください。読者の皆様、すみませんでした。

さあ！今年も全国で連日連夜エアコンを入れていなければ、熱中症にかかるというニュースが、相次ぎました。読者の皆様も外に出られるときは水筒やペットボトルに水分をタップリ持って、外はできるだけ白陰を歩き、夜寝る時もエアコンをつけ、ぐっすり寝ることは熱中症予防に良いそうです。それと、毎日風呂に入りましょう。こうした事から事前に、より良い熱中症予防に繋がるのです。

話は変わりますが、今年もまた8月5日(火)~22日(金)甲子園球場で第107回を迎える、熱戦が繰り広げられる全国高等学校野球選手権大会。もう全国で予選は始まっている。はたして、選抜優勝校の横浜高校は神奈川代表として甲子園に帰ってくるのだろうか？奈良代表、天理高校は今年も甲子園に来るのだろうか？僕が一番気になるのは大阪の代表校。はたして、深紅の大優勝旗はどこの学校に行くのだろうか？大阪予選では、東大阪大柏原高校がバッティングで良く頑張っている。(7/23(水)に書いています。)

## ☆青春PLAY-BACK良いことなんてなかったのに、7月11日(金)

こんな歌があったような『グッバイ青春いいことなんて、なかった季節に～』これは長渕剛の若かりし頃の『グッバイ青春』という、いっとき流行った今60代の木戸通雄世代の青春の歌。(まだ当時はCDが無く、ドーナツ盤の大きなワイドステレオ用レコードだった。)この自衛隊の広報ポスターを見て、19歳の木戸がこのポスターを見て、自衛隊に志願したこと思い出した。その時は不安で本当に入隊できるかどうかはわからなかった。父の反対を押し切り、なんとか大阪城自衛隊本部で試験を受け、陸海空のうち陸上自衛隊を選んだ。



※自衛隊募集センターの前で『ハイッ！木戸っ!!』敬礼！



※再び、天王寺・自衛隊募集センターの前で、やや夏バテ気味の木戸でした。

### 【木戸のプロ野球速報】

※現在阪神タイガース首位独走中。そしてパリーグはソフトバンクが2位まで浮上。令和7年も阪神日本一になるかもしれない。去年令和6年に引き続きホークス、リーグ優勝したい！！

## ☆木戸通雄の食いしん坊バンザイ！！(食通になりたい)

(※まずは腹ごしらえ。宣伝ではありませんが、天王寺の地下で、確かワンコイン 500円(税込)の小さい海鮮丼を食べた。)さあ、JR 天王寺駅～平野駅。関西が盛り上がった令和5年の阪神優勝。今年も阪神Vなるか !! それとも横浜が逆転優勝か。連勝中の福岡ソフトバンク・ホークス、去年のパ・リーグ覇者が今2位に浮上 !! 今年も日本シリーズをテレビ観戦するゾオ～！



## くまたまつ ☆杭全祭りにゆくゾオ～!



時間はジャスト 3時、  
ひらのくまたじんじゃ(くまた祭  
り)に着いた。と言っても  
まだ、開始時間の夕方5時  
でもない。祭りが始まるに  
は、後2時間待たなければ  
いけない。でみせも店を構  
えているが、品物も焼いて  
いる物もまだ準備してい  
ない。木戸ガッカリ…



世良公則さん(69歳)、頑張れ 60代。

政治のことはよくわかりませんが投票するのは国民、そして大阪市民。ガンバロウ、ニッポン!! 有権者もガンバレ！ 読者の皆様も 18歳から投票できます。政治家になる皆様是非夢の話を言っておきたい。今、路上喫煙禁止罰金制度になっている。喫煙ボックスを増やすか夢の喫煙移動軽トラックを、つくってほしいな～。ここで世良さんと一緒に

服？そんなバカな!!

次回は9月号、またなあ～。ホナ、サイナラ。

(文責 木戸)

くまたの帰りに、ある選挙ポスターに出会った。  
木戸が16歳の頃、ツイストというバンドがあり、ボーカルの世良さんだった！！(※これは投票の強制・支援とは一切関係ありません。)





きょうりょくかい ひ

きょうりょくしやめいほ

# 協力会費・カンパ協力者名簿

そごう  
十河 芳江 さん  
とりうみ  
鳥海 直美 さん

ひがしうみよしく  
(東住吉区)  
すいたし  
(吹田市)

あだち  
足立 優紀 さん

にしのみやし  
(西宮市)

がつ にちげんざい  
7月31日現在

きょうりょく  
ご協力ありがとうございました (担当: 安東)

たんとう あんどう

「キメハラじゃないよ」

※キメハラ~鬼滅の刃に興味のない人に観るように勧めること



7月18日(金)公開初日の朝時点でのいきつけ映画館のスケジュールだよ、1日22回上映でどの回も満席か残りわずか。すごい!

い！平日なのに。



これもボクたちオニ気のおかげだよね

フギヤ!!

善逸の服

じつぶつたい 実物大の日輪刀

れんじょ 煉獄さん人形

※本当に7月18日(金)に撮影しています  
※刀でオニを叩いてるのは演出です。  
普段はオニを大切にしています。



お盆休み

赤おにくん: 「海水浴、スイカ割り、虫取り、何しようかな」

青おにくん: 「いやそれより、暑すぎる！この日差しの中、ひさしの上にずっと居続けるの地獄だよ！」

赤おにくん: 「でも、地獄と鬼ヶ島と無限城はぼくたちのホームだよね」

青おにくん: 「今年も涼しい映画館に行こうか。満員かもしれないけど」

## 2025年8月~11月スケジュール

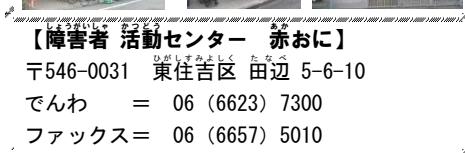
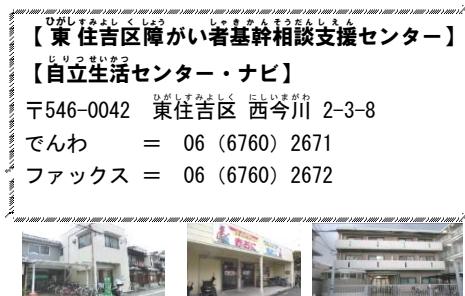
|        |   |                                                       |
|--------|---|-------------------------------------------------------|
| 8月27日  | 水 | 大阪府オールラウンド交渉1日目「権利、交通、教育保育」13時~17時@天王寺区民センター          |
| 8月28日  | 木 | 大阪府オールラウンド交渉2日目「介護、グループホーム、地域移行地域生活」9時~17時@住之江区民センター  |
| 9月12日  | 金 | ~13日(土)ちゅうぶ防災一泊企画 12日(木)16時半~「能登半島震災支援報告」@ちゅうぶ        |
| 9月19日  | 金 | 障大連地域で生きる権利部会「精神障害者の地域移行」13時半~17時@コミセン(森ノ宮)           |
| 10月4日  | 土 | 梅田おにごっこ 10時~16時 @梅田スカイビル 1階ワンダースクエア集合 チラシ参照           |
| 11月17日 | 月 | 「香かなる」上映会(ALS当事者の映画)@阿倍野区民センター大ホール 10:50~/14:30~の2回上映 |

●7月20日(日)参議院選挙。裏金問題などをきちんと処理できなかったこともあり自公大敗で過半数に届かなかった。ただみんなが話題にしたのは、減税や手当支給ではなく、当初争点にもなってなかつた外国人問題。SNSでは選挙戦の後半に大きな関心を呼んだ。確かにコンビニも町の中でも外国人は増えている。でも実際に困った事例が増えている実感はない。中には「〇〇系の人は悪い」と公言する政党まで現れ、対立を煽る。「発達障害なんて無い」「終末期の延命治療は全額負担」という政党もあるが、障害のとらえ方や医療的ケアの必要な重度障害者の生活にもつながる話。アメリカではトランプの元でD E I(多様性、平等性、包摶=インクルーシブ)の否定が大々的に進められている。日本もトランプをまねていこうという勢力も増えている。戦後80年迎えているが、世界を見渡してもまったく安心できない世界になっている。

8月1日には須磨海浜公園へみんなで海レク。大阪も連日40度近い猛暑ですが、砂浜、松林は比較的涼しい。須磨ではビーチマットがあり車いすでも波打ち際までスムーズ、バリアフリーなシャワー室もあり、快適。大阪駅の暑さが気になりました。(いしだ)

●ちゅうぶさんへ 私はまだ39歳で、今年9月に20年間住んだ大阪、8年間働かせて頂いたNPOちゅうぶを離れ、愛媛県大洲市に移住します。引越し準備、仕事引き継ぎ、三歳になる息子との時間を何周も繰り返す夏です。今、住んでる家では、過去や現在の物が散乱し、生きる息子は無邪気に笑って物をあちこちに移動させ、扉や箱を開けまくり、新たなバリアが生まれます。部屋に散らかったものを拾い、大阪での20年を思い返します。思い通りに作業は進まず、自分の体力と時間の限界がきます。20代の自分が他人や社会のせいにし、自暴自棄になり、前に進めませんでした。30代でちゅうぶのみんなと過ごし、色々なバリア(物、意識、関係)、バリアを無くす、マシにする方法を教えてもらいました。バリアは人と人の間に生まれる生きものだから、日々生まれ、変化していく。パターンを当てはめるだけでは解消されないので、日々、会話や観察の中にあるヒントにアンテナを張り、気持ちのあそびを持っておく。このようなバリアに対する心持ちのおかげで、家や職場の物、意識、関係にバリアが生まれても、焦らずに進むことができています。ちゅうぶのみなさま、8年間ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。(はまだ)

●ヘルパー派遣部門のヘルプセンター・すべての林です。編集後記の担当が回ってくる時間が長くなり、ちゅうぶの職員数がとても増えていることを感じます。皆様、この暑さにやられてないでしょうか?事業所で働く人の熱中症対策も義務化されました。すべてのヘルパーの職場はほぼ個人宅。それぞれエアコンの温度も違いますし寒暖の感じ方も違います。またヘルパーが働く場所と住居人がいつも居る場所も違うこともあります。折り合いをどうつけるか、難しいところですね。暑さ対策、外だけでなく、家のなかで大事ですよ。皆さん、エアコンや扇風機等を使用して、熱中症にならないように気を付けて下さいね。(はやし)



### 【グループホーム・リオ】

〒546-0032 東住吉区東田辺  
2-21-21

でんわ&ファックス = 06(6608)5244

### 【ヘルプセンター・すべて】

NPO法人ちゅうぶ 2階

でんわ = 06(4703)3741

ファックス = 06(6628)0271

### 【障害者活動センター青おに】

NPO法人ちゅうぶ 1階

でんわ = 06(4703)3742

ファックス = 06(4703)3743

### 編集：特定非営利活動法人

### 【NPO法人 ちゅうぶ】



ホームページ=https://npochubu.com/  
メールアドレス=chubu@npochubu.com  
郵便振込口座:00960-6-313427  
通信定期購読料=1年間2,000円